

## 《卒業研究報告》

## マッチングアプリにおける若者の恋愛観と結婚観の変化

大塚 香奈 (元治ゼミ)

## はじめに

日経ビジネスのスペシャルレポートで「指先一つでカップル誕生」「アプリで出会って結婚しました」という言葉が取り上げられるなど、マッチングアプリは人生の半分以上を添い遂げる相手を選ぶツールとして確立してきているようだ(大西、橋本 2020)。SNSの普及に伴い、若年層はデジタル世界での出会いへの意識が変わり、2020年に行われたMMD研究所のマッチングサービスアプリの利用実態調査によれば、20～49歳独身男女のマッチングアプリの認知度は2020年に27.0%と2019年の25.7%と比較して1.3%上昇したことがわかった(伊藤 2020)。

そして近年、マッチングアプリの利用有無にかかわらず友人との会話やSNSの広告など日常生活でも近い存在になりつつある。2022年11月22日に放送されたTBS NEWS DIG Powered by JNNで結婚のきっかけ1位に「マッチングアプリ」が挙がり、「職場や学校」を上回った結果となったことが明らかとなった(TBS NEWS DIG Powered by JNN 2022)。明治安田生命による「いい夫婦の日に関するアンケート調査」では、マッチングアプリの利用客数は2010年～2014年2.4%、2015年～2019年6.6%、2022年22.6%とここ数年で大きく上昇傾向にある(株式会社明治安田生命保険相互会社 2022:12)。これらの現状から、運命の相手をマッチングアプリの中から見つける世の中になりつつあると考えられる。そこで本論文では、マッチングアプリが恋愛や結婚に

どのような影響をもたらしているのか、アプリでの出会いのイメージやそこでの出会いに運命は存在するのか、アプリの流行からアプリ特有の良さは何なのか、明らかにすることを目的とする。

マッチングアプリといっても多様な種類と幅広い年齢の人が利用しているため、本論文はTinderやタップル、Omiai、Withを利用している大学生と以前マッチングアプリを利用していた大学生を対象に調査を実施する。恋愛真っ盛りかつ将来に対して考え始める年齢だからこそ、マッチングアプリは個々の人生の分岐点にもなり得ると考える。インタビュー調査では主に「運命」を重要なキーワードとし、出会い方や愛、マッチングアプリ婚などに重点を置いてインタビューしていく。

## 第1章 本報告の問題設定

## 第1節 先行研究の検討

WithとOmiaiを利用していた男女4名に対するインタビュー調査(大坂 2022:15-18)によれば、マッチングアプリ(以下アプリと略称)で相手を探す際、男性は有料であることもあり、利用できる「いいね」を使わないと勿体ないという気持ちで上限や利用期限が気持ちに影響をもたらしていた。「数打ちゃ当たる」という気持ちが相手をあまり厳選せず「いいね」に繋がっている現状がある。それに対し、女性は大量の「いいね」やメッセージのやりとりがめんどくさいなど恋愛に受け身で消極的な印象が読み取れる。この大量の「いいね」があまり厳選していない男性の思考と繋が

り、マッチング後のメッセージは想いの薄っぺらさと関係していると考えられる。プロフィール項目に関して、「年齢」「居住地」「プロフィール写真」「自己紹介文」「好きなこと・趣味」の重視度が男女ともに高かった。中でも、「年齢」「居住地」は自分と近い年齢や会いに行ける場所にいる人を重視するのは当然だと考えられる。しかし逆に、友人の紹介等では出会えない年の離れた相手と出会いたい人にとってもアプリは有益な存在であり、アプリだからこそその良さである。

また、女性は男性に比べ「同居人」「職業・職種」「年収」などの項目も重視度が高い。その理由として自立しているかどうか、経済的に安定しているかどうかを判断する材料の一つであり、恋人として交際するにしても結婚を意識した発言が多かった。経済的な安定面としては、産休育休取得時の生活の安定と関連していると考えられる。また、子育てには金銭面だけでなく世話や教育に使う時間、精神的な余裕も必要になる。そこで生活面での質的な安定を求めている人も増えているのではないだろうか。

これらのことから、会う前から相手の情報が分かるからこそ、先を見据えた重要度の高い項目に重点を置いているのではないかと予測する。また、安定にも種類があることや様々な項目の記載事項の裏側にある意図を読み取るなどアプリ特有の技があると考えられる。

そのため本研究では、インタビュー調査によって、アプリの普及が大学生の恋愛・結婚に与えた影響や「運命の人」の考え方の変化について、アプリ利用の有無による違いに焦点をあてながら詳細を明らかにしていく。

## 第2節 問いの設定

本研究では、今の大学生はアプリを通じての出会い方とそれ以外の出会い方に対して出会いに感じる運命に差があるのか、どういうイメージを抱

き、「運命の相手」をどう捉えているのか、恋愛観と結婚観を明らかにし、それらについて、インタビューを元に考察していく。

考察にあたって立てた仮説は、「近年、マッチングアプリの普及に伴い、若者の運命の相手は限定的になった」というものである。アプリの普及によって「最初から好意がある」という限られた視点で相手を探すようになったこと、経済的に不安定な状況が続く中で結婚願望がない若者が増えたことが、運命の人を限定的なものに変えた理由として大きいのではないかと考えられるためである。また、恋人をつくるための行動として、初めから自身の好みやタイプに合った人と出会えること、初めから恋愛意識をもって関係を発展させていけることが、アプリ利用の利点として大きい存在になっているのではないかと考えられる。

この仮説をもとに、今回のインタビューでは、①付き合うことに対して、何を重要視しているのか、②アプリに対するイメージ、アプリ利用者の感じ方、③結婚願望とアプリ利用の関連性、④結婚に対する意識、考え方、⑤運命の人に対する考え方、現代の恋愛のあり方について調査していく。

以下では、インタビュー調査を踏まえた上で、アプリの存在が大学生の恋愛観・結婚観に与えた影響や運命の人の考え方の変化について考察していきたい。

## 第2章 調査概要

### 第1節 調査方法の設定

今回の調査では、大学生を対象とした構造化インタビュー調査を行った。インタビューについては調査に同意を得た後、それぞれ個別に通話または直接会ってインタビューを実施した。音声録音の許可を得て、別途書き起こしを行った。

### 第2節 インタビュー対象者、質問の設定

以下の10名にインタビュー調査を行った。イン

	性別	学年	恋人の有無	アプリ利用経験の有無	インタビュー実施日	利用アプリ
A	女	4	無	有	2023/8/25	Tinder/タップル
B	男	4	有	過去に有	2023/9/4	Tinder
C	女	4	有	過去に有	2023/9/4	タップル
D	女	3	有	過去に有	2023/9/7	Tinder
E	男	4	有	過去に有	2023/9/6	Tinder
F	男	4	有	過去に有	2023/9/7	Tinder/タップル
G	男	4	有	過去に有	2023/9/4	タップル
H	女	3	有	過去に有	2023/9/11	Tinder
I	男	4	無	有	2023/9/9	With
J	男	4	無	有	2023/9/15	Tinder

タビュー対象者は現在アプリを利用している人と以前利用していたが現在利用していない人の2パターンに該当する人である。

共通の質問項目は以下である。

1. 属性
2. 恋愛観について
3. マッチングアプリについて
4. 結婚観について
5. 運命の人、現代の恋愛について

インタビュー結果を恋愛観項目、マッチングアプリ項目、結婚観項目、運命の人項目の4つに分け、分析していく。

### 第3章 恋愛に求めるもの

アプリ利用者の恋愛観はアプリ利用の有無と関係があるのか、それぞれの質問回答からなぜアプリを使うに至るのか、付き合うことに対して何を重要視しているのかに着目していく。第1節のみ

恋人の有無で無と回答した3名にインタビューを行った。

#### 第1節 恋人は欲しいか

恋人は欲しいかという質問にはインタビュー時恋人がいないと答えた人のみに回答してもらった。

—恋人が欲しい

I 「欲しい。安心感と自己肯定感が高まるから。いないよりはいた方がいいよね」

J 「ほしい。1人だと寂しいから」

—恋人はほらない

A 「ほらない。恋愛に休憩したいから。彼氏じゃないけど相手はいるよ」

現在恋人がいなない3名のうち、両者の意見はほぼ半々であった。欲しい人の意見では恋人の存在が孤独感を軽減させ、安心感と自己肯定感を上げてくれると言っていた。一方、欲しくない人の意

見では恋愛をしたい時期としたくない時期があるようだった。しかし、恋人ではなくとも恋人のような存在(性的関係はあるが交際はしていない人)がいると言っていた。総じて、絶対に恋人という存在ではいけないわけではないが、安心感や自己肯定感、寂しさを埋めてくれるプラスな要素を持つ存在を求めていることが分かる。

## 第2節 どんな時欲しくなるか、また欲しい時どんな行動をとるか

恋人の有無に関係なくインタビューに協力していただいた全員に、恋人をどんな時に欲しいと感じ、欲しい時どんな行動をとるのかについて回答してもらった。ここでは代表的な意見を以下に記した。

—誰かの恋愛にふれた時

A「惚気を聞いている時。インスタの投稿を見た時。彼氏が一番の味方になってくれる時。欲しいってなったら一番にマッチングアプリを使う、二番に友人の紹介。マッチングアプリ使うけど、会ってみたいと良い人か分からない」

B「カップルのいちゃいちゃを見た時。ほしいと思うとできない。出会いの場に行く。友達の話に行く」

E「他の人が付き合ってるのをみたら欲しくなるかな、そうだったら友達に紹介してもらおうよ」

—一人が寂しい時

C「寂しいなって思う時。色々な事を気軽に話せる人がほしい。呑みの場に行く、友達に紹介してもらおう」

H「一人が寂しく感じた時。何も行動しない、待つ笑」

—自分に必要な存在だと感じた時

A「彼氏が一番の味方になってくれる時。」

F「疲れた時とか自分が嬉しいことがあって誰かに伝えたい時。友達に良い人いる？って聞いたたりする」

G「生きる源がほしい、頑張れる存在がほしい。俺はマッチングアプリを使ったり、友達とかに良い子いない？って聞いてみたり。呑みに行ったりとか」

恋人が欲しいと感じる時は友人の恋愛を近くで感じて羨ましく思う瞬間や孤独を感じる時、恋人という存在が必要だと感じた時と多様な意見があった。恋人という存在がただの恋愛感情で生まれる存在ではなく、頑張る活力であり安心を与えてくれ、何かを分かち合い、背中を押してくれる存在であることがわかる。また、欲しいと感じた時どんな行動をとるのかという質問で一番多かった意見は友人紹介であった。気軽に聞くことができること、友人からお墨付きであることが紹介相手の信用性に結びついているといえる。友人紹介だけでなく、アプリを使うという人もいた。自発的に出会いを見つけることができるアプリは気軽に始めることができるが、実際に会うまでに時間がかかることや話が楽しくても会ってみたいと良い人か分からないことが欠点だと考えられる。しかしながら、友人紹介のように紹介相手同士以外での関係性にも気を使わなければならない必要がないため、アプリで出会う相手とは関係性が気兼ねな点が良いといえる。

## 第3節 どんな人と付き合いたいのか、付き合う決め手

恋愛をする上で相手に求めるものと付き合う決め手、恋愛に対する考えと恋人の存在意義を読み取りたい。

—内面重視(性格)

B「面白い、楽しい、怒らない人。年齢は別に、年で会える頻度変わらないし。相手がある程度自分のことを好きかどうかが大切かな。あとは可愛いかわ面白いかで決める」

D「常識があって優しくて居心地の良い人。前提

として私のことが好きか、その上で私が相手を好きかどうか」

E「性格が良い人（人の悪口を言わない、自己中に行動しない人）、自分の意見をもって行動できる人、自分と真逆の人。付き合う決め手は一緒にいて脳みそを使うかどうか。」

J「見た目よりは内面重視でフィーリングが合う人。決め手は何回か会ってみてお互いのことをある程度理解し、気が合えば」

—外見重視（見た目）

B「容姿は一定ラインは。友人に紹介できる程度」

C「優しくて身長高くてお金持ってる。自分になりものを持ってるのがいい。決め手は話しやすさ、落ち着くとか。ずっと前から知っているような感覚」

D「太っていないくて暇すぎない人」

—その他

G「自分を好きでいてくれる子。決め手は自分の中でその人の事好きなのかなーって考えた時にその人のことばかり考えちゃったら」

まず、どんな人と付き合いたいかという質問では、どの回答でも内面についての発言があり、外見のみを重視する人はいなかった。中でも内面重視の回答では10名中4名が「優しい人」と回答し、次に10名中3名が「居心地の良い人」と回答した。付き合う中で価値観が違う人同士が歩み寄るためには相手を思いやる優しさや居心地の良さが温厚な関係性を築くカギになっているとわかる。しかしながら内面だけが重視されているわけではなく、友人に紹介できる程度や隣にいて恥ずかしくない人など多少は選ぶ基準になっている。

付き合う決め手では自分を好いていてくれるか、居心地の良さが特に重要視されていた。居心地の良さという面では人それぞれ感じる感覚が異なり、デートなど一緒に過ごす時間の充実さやコミュニケーションで頭を使うか、また心が落ち

着くなどフィーリングの要素が挙げられた。上記の相手に求めるものでも「居心地の良さ」が多く挙げられたように大切な要素であることが明確である。対して一番多く挙げられていた「優しい人」という要素は、交際に至るまでの期間で一緒に過ごす時間や相手を想う時間を通して相手の優しさを感じていくものだと考えられる。優しいから付き合うというよりは優しさが元となった行動や想いに惹かれて交際に至るのだと考えられる。男女で求めるものに共通点があった。

#### 第4節 恋愛の本気度

毎回の交際における本気度についても回答してもらった。この質問項目では恋愛から結婚を加味して付き合っているのか、2-3の回答と交えてまとめていきたい。また、結婚に関して男女で考え方が変わってくると考えられるため、以下の代表的な回答に性別を印した。

—結婚前提

A（女）「結婚前提にしたい。20後半で結婚したいから今くらいからちゃんと考えて付き合う。スピード婚は嫌だ。追われたいけど追う恋愛じゃないと燃えない。」

C（女）「結婚意欲が高いから、次付き合う人と結婚するっていうくらいの気持ち」

G（男）「二十歳超えてからは結婚願望あるから先を見据えた恋愛をする。高校生の時みたいな次もあるって考えじゃない」

—今を楽しみたい

B（男）「楽しいから一緒にいる、付き合う中でこれからも一緒にいられるなという人だけ。」

E（男）「今が楽しいから一緒にいる、結婚は今はしたくない」

H（女）「今楽しくありたい側。結婚はしたいけどね」

恋愛の本気度では調査協力者の多くが大学4年

生と、将来を見据えた年齢であったためか結婚前提で恋愛をしている人が多かった。しかしながら、今を楽しみたいと答えた人も一緒に過ごす中で結婚意欲が芽生えることもあるという回答もあった。多くの女性の意見では、結婚したい年齢が決まっておりその年齢から遡ると今（21～22歳頃）の年齢から結婚したい相手を探しているとのことであった。それに対し男性の意見では、何歳までに結婚したいという声はなく、良い人がいればという意見が多かった。結婚目的ではなく添い遂げたいと思う相手が現れるタイミングは人それぞれであるため、今現在女性に比べて結婚に対する意欲が低いのではないかと考えられる。

また、2・3の回答と交えて恋愛の本気度を見ると、内面重視の回答が多かった「優しい人」、「居心地の良い人」は長い時間を共にしていく結婚の上で重要なカギになっていると言える。結婚前提でなく、今を楽しみたいと答えた人も交際する中で相手の優しい一面や居心地の良さがきっかけとなり、結婚意欲が高まるのではないかと考えられる。また、外見重視の回答で出た「紹介できる程度」も、結婚という大きな選択の上で何気なく重視されているのではないかと考えられる。

#### 第5節 小括

恋愛観項目では全体的に恋人の有無にかかわらず男女ともに恋愛をしたいという前向きな姿勢が見受けられた。ただ結婚意欲ではやや女性の方が高く、男性は交際期間で相手と結婚したいかどうかを判断していく傾向にある。どんな人と付き合いたいのか、恋人を欲しいと思う時や欲しいと感じた時にとる行動の3つの質問ではアプリが関係していると想定していたが、アプリはただ一つの手段でしかなかった。また、恋愛をしたいと思った時一番最初にとる行動はアプリではなく、友人紹介など身近に聞く人が多かった。

アプリではプロフィール欄に年齢や身長など基

本情報から趣味や好きなものなどの個人的な情報まで書くことが出来るが、相手に求めるものでは「優しい人」や「居心地が良い人」が良いという回答が多かったため、さほど自身の求めているものを強く持っているわけではないように考えられる。

それらのことから、一緒に過ごす時間を加味した時の要素の方が大切で関係が続いていく中で感じ取るものが重視されていることが分かった。アプリ利用者でもアプリより友人紹介を先にする人が多かったが、それでもアプリを利用する決め手として、友人間の人間関係を踏まえるとアプリは気軽に異性と出会えるという利点があるため、アプリを利用するのだといえる。

## 第4章 マッチングアプリ利用者別のインタビュー

この項目では現在アプリを利用している人と以前利用していたが、現在は利用していない人に分けてまとめた。ここではアプリに対するイメージやアプリ利用者のアプリに対する考え方、アプリが利用者にとってどのような需要があるのかについて着目していきたい。

### 第1節 現在アプリを利用している人

本章では、アプリを利用している人に対して、利用に至る経緯や印象について質問を行った。今回のインタビュー対象者10名のうち、現在も継続してアプリを利用している人は3名であった。

#### 第1項 利用期間、いつ頃始めたか

A 「7月から」

I 「1月から」

J 「3か月前くらい」

長くとも7か月前と1年以上続けている人はいなかった。アプリ自体入っていても見ないこともあ

り、ずっとアプリをみているわけではなかった。

第2項 利用のきっかけ、利用目的

A「友人が圧倒的にいないから、そばにいないから。友達作り」

I「彼女が出来なかったから。彼女目的」

J「彼女と別れたから。食事に行ける友達かできれば彼女」

恋人目的の人は2人、他1人は引っ越したばかりで話せる人がいないという理由で友人目的であった。

第3項 現在も関係が続いている相手がいるか、続ける理由、周りの利用率

A「いる。便利だから。男女でいうと6:4くらい」

I「インスタつながってる子はいるけど、少ししかDMしない。LINEは以前してた。彼女がほしい。男友達が3人やってるくらい」

J「たまに食事に行ったりする人はいる。一緒にいて会話も楽しいし盛り上がるから。3人に1人は何かしらの出会い系アプリを使ってるイメージ」

3人ともアプリで出会った人と関係が続いてはいるが、そこまで親密というわけではなかった。周りの利用率では個人差があったがJさんは多い方であった。

第4項 小括

現在もアプリを利用している人では、良い人が見つからないから利用し続けているというよりも誰かと繋がりたいと思った時に使うツールのように感じた。Iさんは彼女がほしくて始めたが、元々マッチングアプリに対してマイナスなイメージを強くもっており利用している今も最終手段として利用している。

第2節 以前利用していたが現在利用していない人

マッチングアプリを利用していたことがある人（現在利用していない人）の回答は以下である。該当者はインタビュー回答者10名中7名であった。

第1項 利用期間、いつ頃始めていつ辞めたのか—すぐに辞めた人

C「2023年の2月の一か月間」

D「一か月もない」

G「2023年の1月から2月」

H「去年の11月から1月まで」

—長い期間やっていた人（半年以上）

B「6か月やってまた再開したけど2か月ほどでやめた。（彼女出来たから）」

E「大学1年の冬から大学4年の春まで」

F「大学1年の冬から大学2年の冬まで」

回答者7名中4名が長くても2か月以内に辞めていた。他3名は半年以上利用していた期間があった。利用期間の人数割合はほぼ半々であるため、以下の回答では利用期間での意見に違いがあるのかにも着目していきたい。

第2項 利用のきっかけ、利用目的、アプリの種類

—出会い目的（恋愛に限らず）

B「遊びたかったから、寂しかったから。自己承認欲求」

G「彼女が欲しくて、彼女づくり目的」

H「出会い目的。遊びたくて」

—その場のノリ・気持ち

C「友達とのノリ」

D「当時の彼氏がやってたからマッチして問い詰めたかった」

F「ただの暇つぶし」

—寂しさを埋める目的

E「元カノを忘れたくて。とりあえず一人でいたくないから、寂しさを埋めるため」

大きく分けて前の人を忘れない、寂しさなどマイナスな感情を払拭するためにアプリを始めた人と、ノリという楽しむため（プラスな要因）で始めた人に分かれた。利用していたアプリの種類では一番多かったものがTinder、次にタップル、Withの利用は1名であった。彼女づくりを目的としていたGさんは敢えて課金制のタップルを利用し本気で探していた。一方Tinderを利用していたBさんとEさん、Fさん、Hさんは現状をプラスに変えたいという想いでアプリを始めていた。Tinderは男女ともに課金なしで利用することが出来るため、気軽に利用できるメリットがあるのだろう。タップルやWithでは男性が有料であるため、遊び目的や寂しさを埋める目的の場合は利用する割合が低くなると言えるだろう。アプリの種類によってきっかけが異なっているといえる。仮説では初めから恋愛意識をもって関係を発展していくと述べたが、きっかけの回答をみると気持ちの切り替えが大きいと考えられる。また、男女間での考えに差はないといえる。

第3項 現在も関係が続いている相手がいるか、再開予定はあるか

—現在も関係が続いている相手はいない

E「連絡は取れるけど会ってない、LINEはたまに、インスタは交換していない。3人ぐらい」

F「いません。LINEは交換してないし、インスタは入れてたけど、彼女出来たから消した」

—恋人と別れたらするかも

B「どうなんだろう、別れたりしたらあるかもね」

E「彼女が出来たから、彼女次第で再開する」

—再開しない

F「彼女が出来たから、再開しない」

現在も関係が続いている相手がいると答えた人はいなかった。連絡先を交換したEさんとFさんは恋人ができたため、連絡を取っていなかった。恋人の有無関係なしにアプリで継続的に関係が続く可能性は低いと思われる。アプリの再開予定としては恋人と別れたら再開すると答えた人は7名中4名であった。寂しさを埋めることや新しい出会いの場としてマッチングアプリの存在意義は合致していると分かる。対してFさんは現在交際の彼女との結婚願望があるためアプリの再開予定はないとのことであった。マッチングアプリで会う人との関係は気軽だが浅いと考えられる。また、男女間での考えに差はないといえる。

第4項 周りのマッチングアプリ利用率

—利用率多め（半数以上）

B「友人は大体とおる道。7割くらい」

C「7割くらい（女子のみ）」

F「10人ぐらい。男女の割合は9：1」

H「結構いる、3人に1人」

—利用率少なめ（半数以下）

D「アプリで付き合い合った友達が2人と、他に利用者は2人知ってる」

E「3割ぐらいじゃない？」

周りの利用率では半数以上と回答した人は7名中5名であった。Hさんは学校のクラス37人中の3人に1人の割合で利用していると答えていたため、周りにアプリを利用している人がいるとアプリをやってみようという気持ちが芽生えるのだと考えられる。また、Eさんはマッチングアプリに関しての会話をするとは言え、友人もアプリを利用しているかは聞くことがないと答えた。そのため、マッチングアプリを利用していることをどのように捉えているかで利用率は変わっているのだろう。世間体としては未だ偏見があるといえる。

第5項 小括

以前は利用していたが、現在は利用していない人の回答ではマッチングアプリ自体は自身の気持ちを切り替える手段であり、恋愛意識がないとは言えないが継続した関係をもつのは中々難しいといえる。アプリの利用きっかけでは恋愛に限らず新しい出会いを求めているというプラスな回答もあれば、元交際相手を忘れたい人などマイナスな気持ちをプラスに変えたいという回答もあった。

総じて分かることはマッチングアプリが色々な人と気軽に出会えるツールになっているということだ。実際にCさんとGさんはアプリで出会った相手と交際に至り、ともにアプリを辞めた。きっかけが恋愛意識が強くなくとも出会う人とのマッチや本人の気持ち次第でアプリが恋人を作るツールにもなることが読み取れる。

第5章 アプリ利用の価値

本章では現在アプリを利用している人と現在アプリを利用していない人全員にインタビューを行った。この項目では結婚願望（第6章第1節の質問）とアプリ利用の関連性と、アプリ利用者が感じるアプリの価値について着目していきたい。

第1節 どんな人と出会いたいのか

—話しやすさ重視

A「気軽にご飯に行けて、気を遣わない人。」

B「つつこめる人、沢山話せる人、お酒が好きな人、食べるのが好きな人」

F「話していて楽しい人、年齢と住んでるところは気にしていたけど趣味は別に」

—理想のタイプ

C「年、21歳から24歳まで。趣味とかは皆嘘だから信用ならん」

G「身長。152cm 以下の人で検索してた」

どんな人と出会いたいのかという質問では大きく

分けて一緒にいる居心地などの話しやすさを重視する人と、年齢や身長などの理想のタイプを重視する人であった。話しやすさの中でも話のノリや気を遣わない関係性など種類があることが読み取れる。話しやすさを見分けるには対面でないと判断が難しいと考えられる。理想のタイプを求めて出会う人の回答としては身長や年齢を指定して探している人が2名いた。タプルでは共通の趣味を重視しているアプリであるが、Fさんに趣味について質問したところ、プロフィールの趣味は重視していなかった。また、Cさんは趣味について嘘の可能性があるので信用していないと回答していた。

これらのことから、会話を続ける中でお互いの趣味を探る方が信憑性が高いと考えられるため、全体的に会話が重視されているとわかる。趣味と異なり身長や年齢など決まった基準の方が大きな嘘をつく理由がないため、信用性があるともいえるだろう。男女間での考えに差はなく、多くは内面重視の回答であった。

第2節 アプリで出会う人の関係性、アプリで本気の恋をしたことがあるか

—暇つぶし

E「暇つぶし。あるんじゃない？アプリで友達が付くから」

G「恋人になる人もいれば暇つぶし相手にもなる。実際にアプリで付き合えて本当に好きになれたから本当の愛はあると思う」

H「ただの遊び相手。本気の恋をしたことがないし、実際はないと思う。アプリの偏見になっちゃうけど、色々な人と遊びたいから利用しているわけで、心の中でどうせ他の人とも会ってるって思っちゃう、自分じゃなくていい」

—友達

F「友達。まああると思うけど自分は経験したことがない」

—友達でもなく、恋人でもない

A「異性であれば特別な異性という感じ。あると思う。アプリって合コンのオンラインバージョンだし」

B「友達ではないけど、恋人でもない。そういうテンションで、きてるという暗黙の了解。本当の愛がどこにあるか分からない。でも本当に良い人がいて一年くらい付き合う人もいたから人によってはある。」

アプリで出会う人との関係性で一番多かったのは遊び相手やタダ飯目的など含めた暇つぶしであった。暇つぶしと答えた10名中5名全員がアプリでの本気の恋をしたことはなかった。友人が付き合ったなどの事実から本気の恋があると思う人もいたが、どこか他人行儀で信じているとはいえない。また、友達でもなく、恋人でもないと答えた人は2名で、アプリ内での関係性は対面で出会った人との関係性と比べると希薄的であるといえる。

これらのことから全体的にアプリで繋がる人とは本気で関係をもとうとしていないことが読み取れる。アプリで本気の恋をしたことがあると答えた人は10名中3名でCさんとGさんはアプリで出会った人と交際し将来を考えるまでの関係になっていると言っていた。本気の恋に関しては男女間での考えに差はなく、本人次第であるといえる。しかしながら、多くは最初からアプリの相手と本気の恋をしようとは思っていないことが読み取れる。

第3節 アプリの危険性とそれに勝る価値、浮気・二股・他の人にも「いいねorいいかも」している可能性について

<危険性>

—身バレ

B「身バレする可能性があるよね」

—騙される

B「加工」

C「騙される人は騙される。普通にアプリって危ないと思う。」

E「なんとも思わない、病気や性病、ぼったくりに連れていかれる可能性を考える。」

G「美人局が怖い。」

H「変な場所連れていかれたり、年齢詐欺が怖い。」

—金銭面

F「関係性を簡単に切れちゃうから金銭面の問題があるかもしれないから怖い」

J「色々リスクも高く金銭面で騙されたり盗難にあったりという話をよく聞く」

<それでも勝る価値>

—色んな人と出会える

C「私は出会えたからいいけど。中には良い人もいるよ」

F「自分の暇つぶしにはなるし気軽に人と話せるのは価値」

—いざとなれば逃げればよい

H「でもいざとなれば逃げればいいかなって。遊びたい気持ちを優先しちゃう」

—手軽さ

A「手軽さが可能性を広げてくれるから使う価値あり」

J「気軽に会える」

まず、アプリの危険性では騙される可能性が多く挙げられた。想像以上に騙されると捉える回答の種類が多かった。男性の回答では身バレや美人局、加工、性病、ぼったくり、盗難で、女性の回答では変なところに連れてかされるなど相手に騙される可能性や年齢詐欺であった。金銭面の危険性に関しては男性のみ挙がった。男女ともに相手に騙される可能性を考えていたが、それでも色んな人と出会えることや手軽さがアプリの利用価値

となっていることが分かる。また、いざとなれば逃げれば良いという考えをもっている人は危険性を知っていても実際に起こり得るケースは希少だと考えていた。

#### 第4節 アプリの良さ・悪さ、抵抗感

##### —プラスなイメージ

C「良さは良い人がいればいい人と出会えるし、暇な人は連絡がたくさん来るから暇つぶしにいい。色んな経験ができる。」

G「良さは出会いがあること」

H「良さは色んな人と簡単に出会えること」

##### —抵抗感あり

A「悪さは危険、圧倒的にトラブルの多さ。文面だったらどうとでもいえる」

C「知らない人に会うのって怖いからあった。」

E「悪さは実物と違う時があるから写真詐欺の可能性が高いのと、お金がかかること、その人が本気かどうか伝わらない」

G「悪さは男性だけが料金が高いということ、すぐに切られることかな。あとは最初知り合い居たらやだなっていう抵抗があった。」

J「最初は少し抵抗はあったが意外と真面目な方も多いのですぐ慣れた」

##### —抵抗感なし

B「あんまない。いざとなったらやめるしやってみようくらい」

抵抗があった人は10名中8名と最初は抵抗を抱きながら始めた人が多く、男女ともに抵抗を感じていた。抵抗を感じた理由としては知らない人と会うのが怖い、知り合いがいたら嫌という意見が代表的であった。男性の回答では写真詐欺や料金の高さ、女性の回答ではトラブルが性別ごとに異なる抵抗感の理由が挙げられた。しかしながら、アプリを始めるきっかけがノリや軽い出会い目的の人が多かったこともあり、いざとなったら辞め

れば良いという考えで利用していた。対して抵抗がない人は、危険性を理解しているが当事者にはならないだろうという考えをもっており、いざとなった時どうすべきか考えると言っていた。アプリの危険性をどのように捉えるのかで抵抗感が変わってくるのだろう。知り合いと出会う可能性という危険性であれば危険性を身近に感じ抵抗感があるのかもしれない。しかし、抵抗感を感じていない人は男女間のトラブルや美人局のような大きな危険性を考えているため抵抗感に差がでているのではないかと考えられる。

#### 第5節 アプリでの出会いに対してどういうイメージを持っているか

##### —プラスなイメージ

A「ワクワク感と心配がある。結局運。」

B「良くも悪くも軽い。気軽に会えて気軽に切れる。関係性が気楽なのが良い」

F「こういう出会い方があるんだなと思った（良いイメージ）」

##### —マイナスなイメージ

E「印象は悪いよね、周りの目を気にしなきゃいい」

H「あーアプリなんだって思う。遊びならいいけど、本気ならうーん。」

J「ヤリモクのイメージ」

C「ヤリモクが多いイメージ。話してて楽しいけど結局ヤリモクの話になる。だからあまり良くない。見極められない人はやらない方がいい」

アプリでの出会いに対してプラスなイメージをもっている人は10名中4名とほぼ半々ではあった。マイナスなイメージを抱く人が多いことと抵抗感があった人の多さと関係しているといえる。プラスなイメージではアプリが色んな人と出会えるツールとしてワクワク感や関係性の気楽さを良さとして見出していることがわかる。マイナスなイ

メージでは周りの目やヤリモクなどアプリ内での恋愛に本気になることへの偏見やアプリ自体にまだ偏見があることがわかる。

第6節 アプリを使って初めての感想、アプリに本当の愛はあるか、アプリは現実的にあり？なし？、アプリを身近に感じるか

—意外と良かった

C「最初はアプリ否定してたけど、なんだかんだアプリの人と付き合っちゃったし、騙されたと思ってやってみる価値あり。本当の愛はあると思う、今アプリで付き合えた人がそうだし。現実的にアプリあり。」

—色んな人と出会える、色んな経験ができる

E「色んな人と出会えて色んな経験ができるのは良かった。アプリで友達が付き合ってるから本当の愛もあるんじゃない？現実的にあり。若いならやってもいいと思う、人と会って損することはないから経験上。やる価値はあると思う。」

F「色んな人がいるんだなと思った。悪いことも起きてないから一つの経験として色んな人と出会えたのは良かった。本当の愛はまあまああると思う。あり派。気軽に会える良さや重い関係性にならないから深く考えなくて良い。」

G「今って合コンも少ないから出会いの場が減ってるからアプリは有効活用すべき。本当の愛はあると思う。現実的にあり。」

—あまり会えない、相手が本気じゃなかった

B「そもそもそんな会えない。女の子もゆうてそこまで本気じゃないんだなーって。本当の愛がどこにあるか分からない。でも本当に良い人がいて一年くらい付き合う人もいたから人によってはある。現実的にあり。そういう付き合う感じじゃなく、楽しむ目的だから。本気ならなしかも。そこまで続いたケースがないからありとは言えない。手段としてはあり。」

—楽だけどもめんどくさい

A「楽だけどもめんどくさい。本当の愛はあると思う。合コンのオンラインバージョン。現実的にあり。マッチングアプリやってるから悪い人ってわけじゃない。」

アプリを使って初めての感想ではプラスな回答の方が多かった。主に多かったのは色んな人と出会える、色んな経験ができるという回答でアプリ自体の利点を実際に利用して感じていることがわかる。Aさんのマッチングアプリをやっているから悪い人とは限らないという意見とCさんのなんだかんだアプリの人と付き合ったという意見は似ていると考えられる。本当の愛はあるのかという質問に対して、あると答えた人は10名中8名であった。実際に自身がアプリ内で本当の愛を感じたことがなくともあると思うと答えた人が多くいたことから、アプリは単に出会うツールの一つであると考えていることが読み取れる。対して、ないと答えた2名の回答ではアプリでの出会いに対する偏見が大きく表れていた。そこで、第7章第2節の理想の出会い方に着目してマッチングアプリの世間体を明らかにしていきたい。

また、抵抗感を感じていたが実際にアプリの人と交際に至ったCさんとアプリで出会った人がそこまで本気で恋愛をしにきていなかったと感じたBさんの回答を考えると、アプリ利用者の中で恋愛に対する本気度が異なっていることがわかる。アプリは気軽に異性と出会えるツールであるため、本気で恋愛したい人となんとなく始める人が混じり合っているのだと考えられる。

アプリを身近に感じると答えた人は10名中9名であり、友人との会話や街中で見かける男女がアプリでの出会いなのではないかと感じるからという回答が多かった。身近に感じないと答えた人は周りでアプリの話にならないからと回答しており、アプリの会話の頻度には個人差があるといえる。その要因としてアプリのイメージにマイナス

なイメージが多かったことと関係しているといえるだろう。

### 第7節 小括

アプリ利用者は色々な人と出会いたい人や気軽に出会いを見つけられるという面でアプリを利用しているためか、アプリ内で出会った人との関係性で一番多かったのは暇つぶし相手であった。また、2-2で寂しいなど気持ちが下がった時や恋愛以外も含めて出会いを求めている時など自分の都合が良いタイミングで利用できる利点がアプリにあるためとも考えられる。

アプリ内で出会いたい人では男女ともに話しやすさを重視しており、アプリとアプリ以外での出会いで着目している点に差は感じられなかった。しかし2名のみ身長や年齢でフィルターをかけ絞って相手を探していた。対して共通の趣味をモチーフにしたタプルが在る中で趣味を重視している人はいなかった。その理由として、趣味は偽ることができるからが挙げられた。お互いの趣味を知るには会話で探る方が信憑性があるため、話しやすさも含めて会話がかなり重要視されていることが明確である。

アプリを利用する上で危険性はさまざまあり、男女で感じる危険性は異なっている点もあった。特に男性の美人局やぼったくりなどの金銭面の危険性は判断が難しい。アプリの怖さがありながらも利用する理由として、いざとなれば逃げればよいと考えていた。利用者本人は友人との会話などでアプリを始める前から危険性を全く知らないわけではないことや大きな危険性ほど身近に感じにくいいため安易な考えになっているのだと考えられる。アプリは若者の間で身近なツールとして確立してきているといえる。本当の愛があるかについては実際に感じたことがない人が多いため、「暇つぶし相手」という関係性によっていく関係もあるのだと考えられる。

## 第6章 若者の結婚観の現状

この項目では結婚に対する意識と考え方、若者の将来の考え方、男性と女性の性別間での結婚観の違いに着目していきたい。また、一般的な結婚とマッチングアプリ婚では何が違うのか明らかにしていく。

### 第1節 結婚願望と結婚の決め手

#### —結婚願望ある

A 「めっちゃある。年が年だと感じてきたから。今相手がいないから。」

B 「いずれ家庭はもちたいと思ってる。」

C 「ある。団地で孤独死したくない、子ども欲しい、幸せな家庭に憧れる」

F 「ある、今彼女がいるから、今カノ以上に良い人はいないと思う」

G 「ある、子ども欲しいし、孤独になりたくない。若いパパになりたい」

#### —結婚願望ない

D 「そんなにない。元々ネガティブなイメージ」

E 「ない、結婚のメリットがない」

結婚願望があると答えた人は10名中8名であった。その中には良い人がいればという回答も含まれている。結婚したい代表的な回答としては、年齢を意識しだしていることや孤独死したくない、子どもが欲しいなどが多く挙げられた。女性の回答では年齢や子どもの欲しさが多いことから出産を視野に入れていることが読み取れる。男性の回答では今付き合っている彼女との将来を考慮ができていることや若い父親でありたいこと、いずれは家庭をもちたいなどから良い人と出会えるかで判断していることが読み取れる。女性は結婚に対して出産など身体的なことも含めて考えているのに対し、男性は経済面を考えているのではないかと考えられる。女性も長く働く社会になり

つつある現代でも出産など女性にしか出来ないことがあるため男女間で考えが変わるのだと考えられる。結婚願望がないと答えた2名は結婚に良さを感じていなかった。Dさんは子どもを産みたいという気持ちが薄いため結婚意欲が薄いと見える。

## 第2節 結婚に対するイメージ、結婚の良さ・悪さ

### —プラスなイメージ

A「楽しそうだなと思いつつも、楽しいだけじゃない。良さは自分の絶対的な味方がいること、悪さは遊べないこと・自由の幅が狭まる・制限される」

G「楽しいことだけじゃないと思う。育った環境が違うから2人で話し合って歩み寄らなきゃいけない。でもそれができたら幸せだと思う。良さは幸せな家庭を作ればいいなって。悪さは守らなきゃいけないものができる自分の時間が短くはなる。人の考え方によるけどね」

H「幸せ！のイメージ良さは一人じゃないし何かあった時に頼れる人が側にいる、悪さは結婚してから合う合わないがあった時に離れにくい」

### —マイナスなイメージ

B「縛りじゃない？繋がり・鎖。簡単に別れられるわけじゃないけど簡単に別れないじゃん？いい面も悪い側面もあるな。良さは繋がり、悪さも人によっては繋がり。」

J「あまり良いイメージはない。意外と結婚したのに幸せそうじゃない人がいたりするから。良さは精神的に安心する、仕事のモチベが上がる。悪さは自由が減る、お金が自由に使えなくなる、簡単に別れられない」

### —どちらでもない

C「結婚しても離婚する人もいるし、結婚って運だめしだと思う。良さは安心感、一生一人じゃないんだなって。悪さは自由がなくなる」

結婚に対してプラスなイメージをもっている人は10名中6名、マイナスなイメージをもっている人は2名、どちらでもないと答えた人は1名であった。ただ、プラスなイメージをもっている人でも共通していたのは楽しいだけではないという回答であった。しかしながら、結婚したから感じられる絶対的な味方、守るべき存在が結婚の利点として大きいといえる。マイナスなイメージをもっている人では結婚している人が幸せに見えないこと、簡単に別れられないこと、家族という繋がりを縛りと捉えることなどが多く挙げられた。だが悪さだけが挙げられたわけではなく、大きな安心感や仕事のモチベーション、繋がりが良さにもなるという回答もあった。プラスなイメージをもっている人でも結婚の悪さとして繋がりを挙げていることから、それ以上の価値を見出せるかどうかで変わってくるのだろう。

それらのことから、他人だった人と苦楽をともにすることをどう考えているかによってイメージは変わってくると読み取れる。

## 第3節 マッチングアプリ婚に対するイメージ、実際アプリ婚はあり？なし？

### —プラスなイメージ

B「まあ別にいいんじゃない？いいと思ってるなら。アプリ自体が出会う手段でしかないし。社会的な見てくれはあまり良くないけど。婚活と同じじゃね。」

F「これがお互い良い出会いだと思ってるならいいと思う。アプリ婚も自分が良いと思ってるなら良い、周りの目は気にしない。」

G「全然いいと思う。アプリが主流になってきてるし。本当に好きならアプリ婚あり。」

### —マイナスなイメージ

A「本当に良い人に出会ったんだと思う。結婚するってすごい。あり。でもできることなら普

- 通に出会いたい。自分は良いけど自分の家族も大切だから親戚とかがアプリに偏見を持っていたら家族も偏見の目で見られる、それは嫌だ」
- C「良い人と出会えたなら良いと思う。アプリ婚あり、でも自分の子どもにアプリでって言いたくないな」
- E「俺無理だけど、出来る人は凄いて思っちゃう、アプリの人を好きになろうと思わないから。でもまあアプリ婚はあり、良い人がいれば。」
- H「最近増えてるのかなーって思う。結婚までいくならすごいなるって思う。アプリ婚なし。自分はすごくなるって思うけど周りはそうじゃないかも。親に挨拶する時に正直に出会いをアプリって言いづらいからなし。」

マッチングアプリ婚に対するプラスなイメージでは本当に好きならありという回答やお互いが良い出会いだと思っているならという回答が多かった。しかし、マッチングアプリ婚が身近に感じられないからかマイナスなイメージが多く挙がった。マイナスなイメージとしては周りから偏見の目で見られることやアプリの人を好きになろうとは思わないなどが代表的な回答であった。実際にアプリ婚はありかどうかという質問ではありと答えた人は10名中8名であった。ただありと答えた人でも、本当に好きな場合や良い人と出会えた場合など前向きな回答ではなく、条件があると考えられる。

結婚となると恋人同士のみにとどまらず、家族や将来の自分の子どもなどが関わってくるためアプリ婚は嫌だという回答が多くなったと考えられる。今後、アプリに対する偏見がなくなっていくことでアプリ婚も主流になっていくのだろう。

#### 第4節 結婚の決め手で大切にしていること

以下では代表的な意見を記した。

- A「居心地の良さ。私を大切にしてくれるか、恋

人を作る時と一緒に」

- B「怒らない人、朗らかな人かどうか。強くなく弱くなく、ある程度のこだわりと、やさしさかわいさ。心のどこかで結婚式で嫁可愛くないなって思われたくない」
- C「一番は安心感。この人について将来安心だなーとか。その人という未来を想像できるか。あと将来相手の介護ができるか」
- D「第一に居心地の良さ、後は自立してるか、お互いを尊敬できるか、感謝をもてるか」
- J「何か起きた時に2人でしっかり話し合い解決ができるかどうか」

結婚の決め手では居心地の良さや話し合いができるかどうか、尊敬や感謝をもてるかという内面を重要視していた。Bさんのみ外見的要素といえる可愛さを求めていたが、重要度としてはそこまで高くはなかったため、結婚の決め手では恋人の付き合う決め手より相手と過ごす時間を想定した回答が多かったように思える。5-2の結婚に対するイメージと関連して考えてみると、簡単に別れられないという自由の制限を和らげるのが居心地の良さや感謝をもてるかという回答とつながるといえる。

#### 第5節 小括

まず、結婚に対する意識と考え方について男女で共通していた回答は孤独死をしたくないことと子どもがほしいという回答であった。子どもがほしいという回答でも男女で回答の裏の意味は異なる。男性は若いパパになって沢山遊んであげたいであるのに対し、女性は出産適齢期などを考慮し今の年齢を踏まえて結婚を考えていた。男性のみの回答ではいずれは家庭をもちたいことや今の彼女と結婚を考えている人など結婚というより良い人がいればという考えの人が多かった。女性のみの回答では現在の年齢から逆算して理想の結婚し

たい年齢に向けて相手を探す人や出産など今の段階から結婚に向けて考えるという人が多かった。こうなる結果として考えられるのは、女性は年齢によって左右する出産などがあるのに対し、男性は経済面を考え早く結婚したいという考えが薄いのだといえるだろう。また、結婚はつながりであり自由の制限であるという回答が男女ともに多く挙がった。プラスなイメージでは安心感や絶対的味方、守るべきものができるという回答があった。恋愛感情だけでは乗り越えられないことが沢山ある結婚だからこそ、54のように居心地の良さや感謝をもてるかなどが重視されているといえる。つながりを良さとするか悪さとするかで個々が思う結婚の価値は変わってくるのだろう。

若者の将来の考え方では多くは家庭をもちたいという考えをもっている人であったが、結婚に後ろ向きな考えをもっている人が2、3名いた。1名は結婚をしたいと回答したが、合わなかったら離婚をすれば良いという考えをもっていた。彼らの共通点は自分の家族が幸せそうに見えなかったこと、両親が離婚していること、両親が不仲なことなど自身の経験からであった。そういう点である意味結婚は憧れであるともいえる。

一般的な結婚とアプリ婚では何が違うのかについては結婚となると個々の問題におさまらず、多くの人に関わっていくためアプリに対するの偏見からアプリ婚に抵抗があることがわかった。アプリ利用者だからこそアプリに対するの偏見を客観的にもみることができるのだろう。しかしながら、偏見の減少がアプリ婚の上昇につながるともいえる。

## 第7章 運命の人に対する考え方

運命の人項目では、運命の人に対する意識と考え方、アプリの現代の恋愛のあり方、アプリに運命があると思うかについて着目していきたい。また、運命の人について様々な解釈がうまれると考

えたため、ここでは出会うべき人と定義付けてインタビューを行った。

### 第1節 「運命の人」はいると思うか

—いる→8名

F「いると思う。本当にこんなところで出会う？って感じたことがあるから。発言が一緒だったりするからこれは運命だと思う」

E「いるんじゃない？親友とか仲良い人がいるから運命の人もあるって思っちゃう」

G「運命の人って一人じゃないんじゃないかなって。その人生の中で何人とも出会って結婚まで至った人が運命の人。まず出会えたことが運命なの」

—いない→2名

B「思いません。運命とを感じる瞬間はその時だけ。その時良いと思った感情がずっと続くわけじゃない。」

H「いないと思う、運命の人がいるって話を信じてないから」

運命の人はいると思うかという質問に対して、いると答えた人は10名中8名であった。代表的な回答では親友や仲良い人がいるから運命の人もあるのではないかなや、出会えたことが運命、発言や思わぬ出会いが運命だと思うから運命の人もあるなどであった。対してないと答えた2名の回答では運命と感じた瞬間はその時で続くものではないや、そもそも運命の人がいるという話を信じていないであった。この回答の中で、いると答えたGさんといないと答えたBさんの回答は物事の捉え方の問題であると考えられる。運命の回数を自身の中でどう定義付けているのかで左右しているといえるだろう。

全ての回答を踏まえ、運命の人と感じるのは時間が必要なように感じられる。振り返って見た時に思えば長く一緒にいた人が自分にとって大切な

親友や友人になっていることやあの時の出会いが大切なきっかけになっていたことを自分にとって運命の一部だと感じると考えるのだろう。

第2節 理想の出会い方

—とくにない

A「どんな出会いでも良い。第一印象が良い人。最初から悪い人が覆ったことはないから」

—学校

F「高校生とか、学校で出会いたかった。友達と関わっている姿も自分と関わっている姿を見れると素がわかるから自分が付き合う想像が付きやすい」

—友達として出会う、友人の紹介

H「友達として出会ってか、友達の紹介とか」

J「理想の出会いは職場内や友達からの紹介など」

理想の出会い方では、とくにないと答えた人が10名中7名と出会い方は重視していなかった。他3名の回答では学校や友人、友人の紹介など何かしらの接点があるものが良いと考えていた。ただ強いこだわりをもった人はおらず、出会いは何でもよいと考えている回答が目立った。45と5-3の回答からアプリでの出会いに対する偏見があったにもかかわらず理想の出会い方に特に多くの回答がなかったことから、アプリのイメージが要因と考えられる。アプリ自体が近年注目され始めたこともあり、未だ良い印象が着実化しているとはいえないのだろう。

第3節 運命に対する考え方

—選択肢があって自分が選択したものが正しい

A「運命=縁ではないけど、ややそう。自分で作り出すもの、選択肢があって自分が選択したものが正しい」

—運が重なり合って運命になる、タイミング

B「運が重なり合って運命。偶々運が良くて上手

くいったってだけ」

D「考えとか性格とか居心地とかドンピシャな人に出会えたら運命では？」

E「人それぞれタイミングがあるから急かして探すものではないと思う」

—出会えたことが運命

C「出会えたことが運命」

G「出会った時点で運命。」

10名中6名と一番多かった回答がタイミングや運が重なり合って運命になるであった。どの考え方も6-1の運命と感ずるのには時間が必要であるというまとめと繋がりがあるといえる。そしてかつ、運命は急ぐものではなく、自然に起こるものであり時間を要するといえるだろう。

第4節 マッチングアプリに運命はあるか

—あると思う→6名

C「あると思う、アプリで最低限の理想のタイプを見つかるけど、性格とかを理想にする人は理想通りにならないと思う。好きになった人が理想通りにはならないから」

D「あると思う。YouTuberのえみ姉がアプリ婚でめっちゃめっちゃ素敵だと思った。」

G「あると思う、理想のタイプは理想であって、その人と出会わなきゃいけないってわけじゃない」

—ないと思う→4名

B「ないと思う。運命ないけど運はあるって感じ」

H「ないと思う。運命っていうよりアプリやっただけ。人が作ったもので出会ってもうーんって思う」

アプリに運命はあると答えた人は10名中6名、ないと答えた人は4名とほぼ半々であった。あると答えた人はアプリ自体が出会うツールでしかないこと憧れの人がアプリ婚をしたことなどが代表

的な回答であった。ないと答えた人はアプリに運命はないが運はあることや、人が作ったものでの出会いは運命ではないという回答が挙がった。

これらのことから、アプリでどんな人と出会えるかには個人差があるため運命と捉えるより運と捉える方が近いが、アプリ自体は出会うツールとして確立している。そして、アプリで出会えた相手が理想のタイプでなくとも普段から好きになった人が理想のタイプとは限らないという考えからアプリもアプリ以外の出会いと同様に運命があると考えていることがわかった。

#### 第5節 小括

まず、運命の人に対する意識と考え方では様々な出会いが後に運命の人だったと感じるという言葉が近いように考えられる。ただ自身にとって良い意味以外でも影響をもたらした人も出会うべき人であったという考えをもっている。運命を運と捉える人は続いてきた大切な存在を出会うべき人＝運命の人と捉え、出会えたことや選択肢があって自分で選択した人が運命と捉える人は自分を作り上げてきた運命の人の一人と捉えているのだろう。

次に、アプリの現代の恋愛のあり方ではアプリ自体が出会うツールの一つになっているが、アプリ内で知り合った人との恋愛の本気度には個人差があるといえる。アプリは最初から恋愛意識がある状態でプロフィール欄や写真を見て「いいね」をするか判断するが、この行動はアプリ以外での恋愛に似ている部分があるといえる。ただアプリの良さとしては恋愛意識のある異性と気軽に会える出会い場であるということだ。

また、理想の出会い方ではアプリでの出会いに良いイメージをもっている人が少なかったため関連して着目していたが、特に決まった理想の出会いがあるというわけではなく、世間体としてアプリでの出会いに偏見があることがマイナスなイ

メージを生んでいたことが明確になったといえる。

#### 第8章 考察

以上の結果から得られた考察を述べていきたい。

まず、第2章の恋愛観についてであるが、現在恋人のいない人は、「恋人は孤独感を軽減し安心感や自己肯定感を上げてくれる存在」と回答した。また、現在アプリを利用していない人も「恋人という存在がただの恋愛感情で生まれる存在にとどまらず、頑張る活力であり安心感を与え、何かを共に分かち合い背中を押してくれる存在である」と回答した。付き合いたい人に求めるものでは「優しい人」と「居心地の良さ」が多く挙がっていたことから、一緒に過ごす時間の中で求める要素が重視されているといえる。外見のみの重視は無く、内面重視の回答から、アプリ内で初めからタイプの子を探すというより最初の判断材料の一部に過ぎない。アプリ利用者でも出会いを求める中で、アプリを一番に利用するのではなく「友人紹介」の方が多かった。「友人紹介」という信頼性とアプリ利用により異性と簡単に会えることや関係性の気楽さなどそれぞれの利点を鑑みて、出会いを求めていることが分かった。

次に、第3章の恋愛に求めるものについてであるが、現在のアプリの利用有無にかかわらず、アプリ内で出会った人との繋がりには「一時的であり親密ではない」ことが明らかとなった。関係性が気楽さだけに一定の距離感が芽生えているといえる。現在もアプリを利用している人のインタビュー調査では、アプリを利用しているからといって毎回チェックしているわけではなく「暇つぶしのような感覚」であると回答していた。現在アプリを利用していない人も同様に、アプリで出会う人は「暇つぶし相手」と回答する人が多かった。アプリ内では男女ともに「話しやすさ」を重

視しており、会話の印象が大切であることからアプリとアプリ以外での出会いに差はないといえる。アプリを利用する理由として「寂しさ」などマイナスな要素もあれば、「新たな出会い」を求めるプラスな要素もあることから自分都合で良いタイミングで始められるアプリが普及してきたと考えられる。アプリは異性と出会えるツールとして確立していることが融通を利かせ、時に恋愛に発展するといえる。簡単に始めて簡単に辞められる点が気軽な出会いという利点とトラブルや本気度の低い出会いという欠点を生んでいる。最初から好意があるという限られた視点ではなく、良い人と出会えれば恋愛に発展し他は気軽に出会えた異性という存在に過ぎないと考えられる。そのため、仮説の一部である若者の運命は限定的になったとはいえない。

第6章の結婚観についてであるが、結婚願望がある人は10名中8名と多く、「孤独死が嫌」や「子どもが欲しい」、「年齢を踏まえて結婚願望が生まれた」という回答が挙がった。結婚に対して「安心感」や「守るべきもの」、「絶対的味方」というプラスな面もあれば、「自由の制限」や「簡単に別れられない」などマイナスな面もあった。この点は家族という繋がりやの価値をどう見出すかによって変わってくるといえる。また、結婚願望がある中でも男女での考えに違いがあった。男性は「良い人がいれば」という回答があり、女性は子どもが欲しいことから出産を踏まえた回答が挙がった。男性は家族を守る責任として経済面を意識し、女性は結婚適齢期や出産など身体面を意識しているといえる。アプリで「年収」や「年齢」を重視しているという先行研究と比較すると、今回の調査では重視しているわけではなかった。付き合う人に「話しやすさ」を重視していた理由の一つに喧嘩などした時話し合えるかを重点に置いている人もいることから、「年収」や「年齢」などは1つの判断基準に過ぎず、結婚に対して男女

での焦りに差が生まれているのだと考えられる。結婚願望がある人が多い中でもアプリ婚に対しては未だ抵抗があった。結婚となると個人の問題を越えて自分の家族や親戚も関わる問題のため、マイナスなイメージが大きい。しかし、家族や親戚のことを考えず、自分自身の考えとしては「本当に好きならアプリ婚はあり」という回答も多くあった。このことから、アプリでの出会いの偏見がなくなっていくことでアプリ婚の増加につながるといえる。

最後に、第7章の「運命の人」、現代の恋愛についてであるが、「運命の人」はいると答えた人は10名中8名で「友人や親友も運命の人である」という回答や色々ある選択肢の中で「自分が選んだ出会うべき人と捉える」という回答が挙がった。いないと答えた2名は「運命の人を信じていない」と答えていた。両者の回答を踏まえ、運命の人とは時間が経ってから気付く存在であるといえる。運命は運やタイミングが重なり合い運命となる。良いことも悪いことも全て、自身のもつ運であり、自身に必要な存在だともいえる。

理想の出会い方については特に決まったものはなかったことから、アプリでの出会いに偏見が消えないことがアプリの印象を下げているといえる。また、アプリで出会う異性に「いいね」をする基準は街中で「いいな」と思う気持ちと似ているというAさんの回答から出会う場がアプリか否かというだけに過ぎない。現代の恋愛ではアプリの普及によって人々が出会う場が一つ増えたという認識が相応だといえる。

これらのことから、「近年、マッチングアプリの普及に伴い、若者の運命の相手は限定的になった」という仮説は正しくないといえる。この仮説の理由の一つ目である「最初から好意がある」という限られた視点で相手を探すようになったのではなく、出会う異性の中には本気の恋愛を求めている人もいるという視点が相応しい。先行研究

の「数うちゃ当たる」という考えも、良い人がいれば恋愛に発展するという回答と似ている点があるといえる。理由の二つ目である、経済的に不安定な状況が続く中で結婚願望がない若者が増えたことが要因だという想定もまた間違っていた。経済的に不安定な中でもアプリ以外での出会いと同様にアプリ利用者は「話しやすさ」を重視していた。プロフィール欄の「年収」や「職業・職種」は参考程度に過ぎず信憑性もない。また、遊び目的でアプリを始めても出会う相手によっては結婚願望の有無も左右するといえる。アプリという限られたコミュニティが運命の相手を限定的にするのではなく、出会いの場としてアプリを利用することもまた運命の一つであるということが分かった。アプリは使う人によって良さ悪さが表れる。ただ容易に人と出会える良さはアプリ特有の良さであり、誰かの運命を結ぶ存在になる。今後、アプリが世間で信用され偏見をなくしていくためには、アプリ自体のイメージの改善が必要不可欠であるといえる。マイナスなイメージを払拭することがアプリに対する偏見をなくし、アプリ利用者が増え、アプリの良さをより増やしていくことができるだろう。

今回の調査を通して、アプリは若者の運命の相手を限定的にするのではなく、出会いの場の選択肢を増やすという若者にとってプラスな存在として確立していることがわかった。

今後の課題として、実際にアプリで交際に至ったアプリ利用者にインタビュー調査を行うことでアプリの良さを新たに知り、アプリに対するイメージの偏見の改善にもつながることができるだろう。

## 謝辞

本論文の執筆にあたり、本研究の趣旨を理解し、早くインタビュー調査にご協力して頂いた調査対

象者の皆さんに心から感謝致します。本当にありがとうございました。

## 参考文献

- ・伊藤南美、2020、「マッチングサービス・アプリの認知度は27.0%、うち利用経験者は57.1% 緊急事態宣言発令時期にマッチングサービス・アプリを始めた理由「新しい出会いが欲しいから」」（2023年8月7日アクセス、[https://mmdlabo.jp/investigation/detail\\_1887.html](https://mmdlabo.jp/investigation/detail_1887.html)）。
- ・大石美佐、2022、『現代日本の若者はいかに「恋愛」しているのか—愛性・結婚の解体と結合をめぐる意味づけ—』晃洋書房。
- ・大坂瑞貴、2022、「若者のマッチングアプリ利用と恋愛・結婚観」『現代行動学会誌』第38巻、11-20。
- ・大西綾、橋本真実、2020、「指先一つでカップル誕生 恋愛・婚活もリモート時代「出会いテック」の新潮流」『日経ビジネス』、(2055)、42-46。
- ・株式会社明治安田生命保険相互会社 広報部広報グループ、2022、「明治安田生命「いい夫婦の日」に関するアンケート調査を実施 夫婦円満の秘訣は「よく会話」して「感謝の気持ちを言葉で伝えること！出会いのきっかけは、近年「マッチングアプリ」が急増！理想の有名人夫婦は「ヒロミ・松本伊代」夫妻がV2達成」、NEWS RELEASE、(2023年8月5日アクセス、20221116\_01.pdf (meijiyasuda.co.jp))。
- ・TBS NEWS DIG Powered by JNN、2022、「ついに結婚きっかけ1位「マッチングアプリ」本命の決め手は？男性に安全に会うポイントは？幸せパターン3つをご紹介」、TBS NEWS DIG Powered by JNN、(2023年8月5日アクセス、<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/211190?display=1>)。
- ・中井美樹、2000、「若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観」『立命館産業社会論集』第36巻(3)、117-127。
- ・古村健太郎、松井豊、2020、「マッチングアプリの利用

とリスクある性交との関連—成人のマッチングアプリ利用に関する研究(1)—『日本心理学会大会発表論文集』第84巻(0)。

**補足資料(インタビュー質問項目)**

1.属性

名前、年齢、出身地、性別、学年、大学名、恋人の有無

2.恋愛観

- 1恋人は欲しいか、その理由
- 2どんな人と付き合いたい(相手に求める要素)
- 3どんな時に恋人がほしいと思うか
- 4恋人がほしいと感じた時にどんな行動をとるか
- 5恋愛の本気度
- 6何が決め手となって付き合うか

3.マッチングアプリ項目

3-1. 現在利用している人

- 1いつ頃始めたか
- 2なぜ始めようと思ったか、その理由
- 3何を目的としてアプリを利用していたか
- 4どのマッチングアプリを利用しているか
- 5アプリで出会って現在も関係が続いている相手がいるか
- 6今も続けている理由
- 7周りはどのくらい利用しているか

3-2. 以前利用していたが現在利用していない人

- 1利用期間。いつ頃始めていつ辞めたのか
- 2なぜ始めようと思ったのか、その理由
- 3何を目的としてアプリを利用していたか
- 4どのマッチングアプリを利用しているか
- 5アプリで出会って現在も関係が続いている相手がいるか
- 6なぜ辞めたのか、今後再開する予定はあるか

7周りはどのくらい利用しているか

3-3 アプリ利用編

- 1どんな人(属性、性格)と出会いたい
- 2アプリで本気の恋をしたことがあるか
- 3アプリの良さ・悪さはなんだと思うか
- 4アプリで繋がる人はどのような存在か
- 5アプリの危険性についてどう思うか、それでも勝る価値は何か
- 6浮気や二股している可能性を考えたことはあるか
- 7アプリで出会った相手が自分以外の人にも「いいねorいいかも」していても大丈夫か
- 8アプリに本当の愛ってあると思うか
- 9アプリを使って初めての感想
- 10アプリは現実的にあり?なし?
- 11アプリでの出会いに対して、どういうイメージを持っているか
- 12マッチングアプリに対する抵抗はあったか
- 13アプリを身近に感じることはあるか

4.結婚観

- 1現在結婚願望はあるか、その理由
- 2結婚に対してどのようなイメージを持っているか
- 3結婚の良さ・悪さは何だと思うか
- 4マッチングアプリ婚に対してどのようなイメージを持っているか
- 5実際アプリ婚はあり?なし?
- 6結婚の決め手では何を大切にしたいか

5.運命の人、現代の恋愛

- 1「運命の人」はいると思うか
- 2どんな出会いが理想なのか、その理由
- 3マッチングアプリという限られた中での出会いに運命はあると思うか、その理由
- 4運命に対する考え方